

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び  
高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

第三分科会「臓器がん登録の現状と成果、そしてその今後の在り方に関する研究」

（研究分担者 岩月啓氏・岡山大学病院皮膚科・教授）  
（研究協力者 濱田利久・岡山大学病院皮膚科・講師）

研究要旨

平成27－29年度の臓器がん登録における皮膚がん登録の実態を報告し、稀少がんの効率的登録法について検討した。日本皮膚悪性腫瘍学会におけるメラノーマと皮膚悪性リンパ腫臓器がん登録の現況について検討した。

A. 研究目的

日本皮膚悪性腫瘍学会の予後統計調査委員会のもとで岡山大学病院皮膚科(岩月啓氏、濱田利久)と筑波大学病院皮膚科(藤澤康弘)が中心となり、それぞれ、「皮膚リンパ腫」と「悪性黒色腫(メラノーマ)」の登録を継続しつつ、臓器がん登録システム(NCDなど)に参入する場合の問題点について検討する。

B. 研究方法

2007年から実施している「皮膚リンパ腫」および「悪性黒色腫(メラノーマ)」の臓器がん登録を行い、その成果を公開する。(倫理委員会承認あり)

- 1)メラノーマの診療拠点病院(27施設)が共同で年次登録を実施し、その結果を学術大会、Web上で公開する。
- 2)皮膚悪性リンパ腫症例は、専門医認定研修施設(650施設)依頼して年次調査を行い、その結果を学術大会およびWeb上で公開する。

(倫理面への配慮)

疫学データ収集と結果の公開に関して、岡山大学、筑波大学及び日本皮膚科学会の倫理委員会承認を得て実施(2007年から継続)。

C. 研究結果

- 1)現在までの累積登録数：2016年現在、メラノーマは合計4239例、皮膚リンパ腫は合計2814例であった。これまでの年間登録数は、メラノーマ：約350例(新規発症)、皮膚リンパ腫：約350例(新規発症)であった。
- 2)調査結果の公開：日本皮膚悪性腫瘍学会の年次学術大会において、皮膚リンパ腫および悪性黒色腫(メラノーマ)は、ポスター展示を行い、参加者および調査協力者へデータのフィードバックを行った。上記学会のWebにデータを公開している。(URL: <http://www.skincancer.jp/>)

- 3)調査カバー率：メラノーマが本邦の約20%、皮膚リンパ腫が約40%と推定される。

- 4)海外へ向けての情報提供：平成29年度からは、英語版を作成し、同上Web上のEnglish versionとして公開を始めた(URL: [http://www.skincancer.jp/report-skincancer\\_prognosis-e.html](http://www.skincancer.jp/report-skincancer_prognosis-e.html))。公開データの二次利用は自由としている。当該委員会以外の外部研究組織からのデータ利用依頼がある場合には、日本皮膚悪性腫瘍学会に申請し、総務委員会審議を経て利用可能としている。ただし、新たな倫理委員会承認を条件とする。厚生省HTLV-1感染症・成人T細胞白血病・リンパ腫研究班(塚崎班)の第12次全国調査に協力した実績がある。

D. 考察

臓器がん登録としての悪性黒色腫(メラノーマ)および皮膚リンパ腫は、診療施設の拠点化が進み、それらの施設の協力によって効率よく、正確なデータ登録・収集が可能である。

両疾患とも希少がん故にNCDのようなビッグデータを収集することが難しい。

皮膚がん登録において、NCDへの参入が難しい理由を列挙する。

- 1)メラノーマおよび皮膚リンパ腫では、新薬開発が進められ、集積データを外部研究団体および製薬企業との連携による創薬への活用が求められている。自由度の高い利活用が必要。
  - 2)分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などの普及によって、他職種でデータ共有する必要性がある。
  - 3)他の研究班との共同研究が進められており、情報共有を必要とする。
- 以上のような現況から、NCD登録に参加した場合でも、上記の目的に登録データが利活用できるようになることを期待する。

**E. 結論**

悪性黒色腫(メラノーマ)と皮膚リンパ腫登録の現況を報告した。両疾患がNCD参入をする場合に克服すべき問題点について検討した。